

秋 分 儀 式

I :: O :: S :: 儀式魔術文書 AE16A



THE OFFICIAL ORGAN
OF

I :: O :: S ::

PUBLICATION IN CLASS D
IMPRIMATUR : M FRATER I :: O :: S ::

THE AUTUMN EQUINOX CEREMONY FOR ASTRAL WORKING
I :: O :: S :: ASTRAL TEMPLE WORKING

第1章 解 説

本儀式は、小規模な団内グループ(ロッジ単位程度)が、簡易な準備で行える霊的集合儀式(Astral Temple Working)として作成した。従って、実行儀式よりも簡略化した部分がある。

《春秋分点》は、「均衡と調和」を表象する宇宙的な時刻である。年に二回の分点において、太陽の運行または振動と地上の四大元素が融合する。本儀式は、原則的に春秋分点の前後48時間以内に実施すること。2016年の秋分点通過は9月22日(木) 23時21分(日本標準時)である。儀式内容は「三文字の名前の紋章」を用いて秋分の祝祭を実施する。

1 魔術的背景

(1) 三文字の名前

古代末期で最も有名な三文字の名前は $\text{IA}\Omega$ である。ギリシャ神話では、NOX や PAN なども有名である。しかし、ヘブル語の場合は、些か複雑になる。ギリシャ語の神名 $\text{IA}\Omega$ は、実はヘブル語の神名 יְהוָה のギリシャ語訳なのだ。⁽¹⁾ この「聖四文字」の末尾のへーを削った短縮形の יה (イアホウー)は派生神名であり、「聖四文字」に属する。この文字を操作する『セフェル・イエツィラー』の六種類の組合せは、あまりにも有名である。それ故に「三文字の名前」と呼ばれる場合もあるが、魔術操作以外では一般的ではない。⁽²⁾

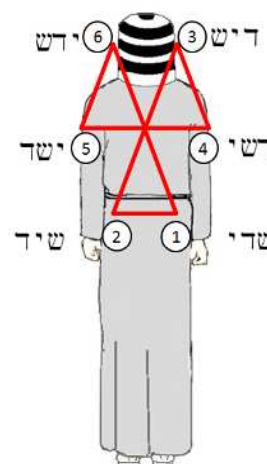
よく知られた「無敵の神」(יהוה シャダイ)が「三文字の名前」である。

エロヒストたちによれば、「聖四文字」はモーシェ以前には滅多に使われなかった。祭司が召喚の名前として使ったのは、 יהוה であると言う。アブラフィアは、 יהוה の文字の総数が、314であり、大天使 מִכָּאֵל の数に等しいと述べた。⁽³⁾

通常は「無敵なる神」(יהוה シャダイ・エル・カイ)又は「全能神」(אל שדי エル・シャダイ)と書かれ七文字又は五文字で示されるため異論もある。一般には「わが岩は無敵」や、「わが族は無敵」と使われることが多い。 יהוה の意味はギリシャ語の「全能 παντοκράτωρ 」と等価であるとされ、ラテン語訳聖書『ヴルガダ』では「全能者 *omnipotens*」と訳されている。⁽⁴⁾

יהוה の六通りの組合せを並べると以下のとおり。

יהוה יהוה יהוה יהוה יהוה יהוה
「シャダヤ シャヤダ ダヤシャ
ダシャヤ ヤシャダ ヤダシャ」



(1) Gideon Bohak, *Ancient Jewish Magic : A History*, Cambridge : Cambridge University Press, 2008, p.296.

(2) Arthur Versluis, *Restoring Paradise : Interpretation and Nature*, Albany : State Univ. of New York Press, 2004, p.85.

(3) Robert J. Sagerman, *The Serpent Kills Or the Serpent Gives Life: The Kabbalist Abraham Abulafia's Responce to Christianity*, Leiden : Brill, 2011, pp.199f.

(4) Maire Byrne, *The Name of God in Judaism, Christianity, and Islam : A Basis for Interfaith Dialogue*, London : Continuum Internatinal Publishing Group, 2011, pp.29f.

六芒星をあしらった祈祷譜に三文字の神名を展開し、その順番に線を引くと三重の三角形で構成される「死者の結び目」が生まれる。その人体への照応は図版のとおりである。⁽⁵⁾

(2) 言語と発話の魔術的解釈

現代のハシドは、人間の思考を発達段階により三種類の「思考の段階」に分類している。

子供が最初に身につける五官のイメージや、直接的行動に結びついた思考であり、「思考の活動」と呼ばれる。明るいところへ向かおう。暖かい猫を抱き上げよう。などのように必ずしも言語による方向づけは必要ない。

次に生まれるのは「思考の発話」であり、その低い段階では、他人が話すのを聞いて思い浮かぶ思考である。より高い段階になると、他人の発話をトリガーとせず、どのように話すかを頭の中で組み立てている。

最終的な思考は「思考の思考」であり、発話せずに自分自身に問いかけを発している。

さて、発話した思考は声になる。声は三種類の元素が結びついてできる。火（エシュ）、水（マイム）及び風（ルアク）である。黄金の夜明け団の教えでは、地上界の四大元素は、マルクトの四分割にそれぞれ収容されるが、伝統的なカバラでは生命の木全体に投射されていた。すなわち、ケセドに水、ゲブラーに火、ティファレトに風、そしてマルクトに地である。それは「心臓の息吹」が親切（ケセド）、厳格（ゲブラー）及び情熱（ティファレト）によって構成されるのと似ている。

そして、発話自体も二種類に分かれる。

実際に、声となる発話を「発話の発話」（דִּבְרֵי דִּבְרֵי דיブル・バ・ディブル）という。カバラの伝承では単に「発声」（דִּבְרֵי דיブル）として知られている。音として外に出ない発話を「思考の発話」（דִּבְרֵי דִּבְרֵי דיブル・バ・マッシュェバー）という。これは「王女」（מִלְכָּה アミラー）と呼ばれる。⁽⁶⁾

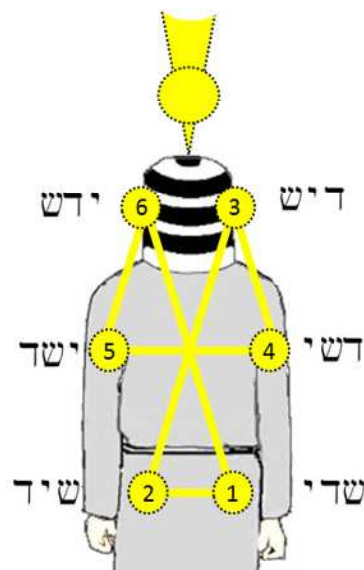
上記と関連して「発話」そのものを「開かれたメモ（□）」といい、「思考」を「閉じたメモ（□）」という。前者は、事実を公開し、広く知らしめる「開かれた声」であり、後者は秘匿された「閉じた声」である。⁽⁷⁾

前記の「死者の結び目」は、隠れたティファレトを中心の三つの三角形を形成している。

下の三角形はTh-N-Hであり、右上のTh-Ch-Chと左上のTh-B-Gが続く。

原初的な三元素が、星辰界・天界の水と、火との二極に上昇する様子を示している。

三文字の名前のパターンを活用した人体への光の導入は、頭頂の光球から右尻、左尻、右耳、右肩、左肩、左耳、右尻に戻り完結する。各行程に呼吸を併用する。



(5) Jacobus G. Swart, *The Book of Immediate Magic*, Part 1, Gauteng : The Sangreal Sodality Press, 2015, pp.156-160.

(6) 一般名詞の「王子」（アラビア語 emir、ヘブル語 AMIR）の女性形であり、「王女」を意味する (Jeanine Cox et al., *The Perfect Name*, New York : Barnes & Noble Books, 2004, p.66)。

(7) Shimon Markel, *De'ah et HaShem*, Torah True Judaism, Inc., 2004-2006, 1:71 to 1:87.

2 司官の配置

(1) 司官の指定

本儀式に必要な司官は、PRAECEPTOR (P C)、すなわち「先導者」の1名である。

P Cは、黄金の夜明け団の伝統的な白の法衣を纏い。白のネミスをかぶり、マントやその他の役職記章はつけていない。右手に「ハイエロファントの棒」をもつ。それは神殿を開き、つなげる権威の象徴である。

他の参列者は、内陣団員は白の法衣と白のネミスを、外陣団員及びプロベিশヨナーは、黒の法衣と白黒縞のネミスをかぶり、手には何も待たず参集する。

ディオン・フォーチュンの内光協会のアストラル神殿儀式では、参集者は儀式場に座ったまま、光体（かれらはアストラル体と呼称）を下位アストラル神殿に投射する。そのとき光体は全裸であり、神殿の着衣の間（Robing Room）において、光の法衣を纏う。

(2) 律法の宰相の召喚

司官は、マルクト神殿で律法の公爵を召喚し、メタトロンの顕現たる大天使の長上が「肉の衣を去る」までは、実効上の神（天使を使役する者）として活動する。この場合「肉」とは、魔術師の「光体」のことである。

3 アストラル神殿の構造

マルクト神殿を使用する。

4 身辺の準備

(1) 部屋の準備

部屋を暖かくし、プライバシーを保護できるような態勢づくりをする。（家族に部屋に入らないように断ってからドアの鍵を閉める等）、携帯電話、アラームの類はあらかじめ切っておく。部屋の中央に快適な椅子か、ソファを置き、その他の不要なものを片づける。

部屋を薄暗くする。小さな照明を利用する場合は、背後に置き、その光を直視しないように配置する。

何度も反復して練習し、象徴や、儀式の細部まで呑み込んでいても、外部の妨害ですべてが台無しになることもあり得る。準備は、怠りなく。

(2) シナリオ

シナリオ文書を単純化したので可能ならば記憶してもらいたい。記憶できない場合でも黎明視の妨げとなるので、テープの使用は控え目に。

あなたの行動する部分は緑の文字で記してある。

神聖名を発音するときは、注意深く行うこと。

事前のリハーサルは勿論、必須とも言える。

(3) 直前の手順

開始する前に手を洗い（儀式的沐浴）、法衣（または身体を締め付けない服装）に着替え、L B R Pを行って椅子に座り、中央の柱の行法で活性化する。

第2章 儀式

1 神殿への入場

この準備的作業は、光体のレベルではなく、生身の肉体で行う。

参加者は、東に面して座り、目をかすかに開き（いわゆる半眼の状態）にする。視線は足下に落とし、家具などの周囲の状況が明確に像を結ばないようにする。瞼を開く程度を変えて、この焦点を結ばない状態を維持する。気持ちが悪くなった場合は、普通に眼を開いて、もう一度調整する。

半眼のまま、深く呼吸をする。呼吸は肺だけではなく、全身の皮膚を通して行う。一息ごとに、喉や鼻孔のみならず、全身の皮膚から、周囲に満ちている生気が肉体に吸い込まれ、全身の細胞を活性化させる。

あなたは光のトンネルを通過して、アストラル神殿の外庭に着地し、扉の前に立つ。マルクト神殿のヤキンとボアズの柱を通過し、青銅の扉に面すると、扉の表面に刻まれたIOSの三文字が内側から光を発し、扉は音もなく両側に開く。

神殿の内陣広間に通じる廊室において、兄弟姉妹たちが集っている。

2 ウシャブティ

先頭に立ち、集まった参加者を振り返るPCが静かに命じる。「ウシャブティを纏うべし。」PCは、率先して「小神像（ウシャブティ）」を纏う。

すなわち頭頂の光球から光を拡散し、やわらかな膜のような形に引き延ばして、喉の光球に結びつけ、さらに胸と背を通して、胴の光球を振動させ、腰を振動させ、最後は足下の光球を振動させ、全身をひとつの巨大な光の膜で包み込んでしまう。その無定型のオーラの卵を好みの神、天使、神話の形態に変化させる。この場合は、司官は顔のないアケファロスの姿形をまとう。参加者は、文字通りエジプト神話の代理神像である直立した人間の姿をもつ霊的姿形を纏う。

PCは、廊室の中央の扉をくぐり、本殿に入る。

兄弟たちは、廊室でしばし準備のできるのを待つことになる。

3 物見の塔の儀式

PCは、祭壇の西側に回り込む。自らのオーラを広間全体に広げる。そして、拡張した白く輝くオーラを保持したまま、小五芒星の追儼儀式を行う。

引き続き、小六芒星の追儼儀式及び物見の塔の儀式を行う。

参加者は、その動きを廊室から、おぼろげな円運動による渦の発生として捉える。詳細なPCの動作を視覚化する必要はない。

4 入場及び宣言

PCは神殿の西の壁を背にして、東を向き合図の鈴を鳴らす。

PCの霊的な鈴の合図で、参加者の入場が始まる。

兄弟たちは右側、すなわち南の壁際に立ち、姉妹たちは左側、北の壁際に立つ。

PCは、内側を向いたまま次の言葉を宣言する。

PC：「I ∴ O ∴ S ∴ の兄弟姉妹たちよ。秋分の儀式を開始せん。」

5 律法の宰相の召喚

PC : 「七つの封印を光体に刻印せん。」

PCは聖なる名前を唱えたあと、剣指をつくり、揃えた両膝に当てる。

参加者もPCの動作に倣う。

PC : 聖名とともに唱える。「アブリース ススティイー。わが脚を封じる。」

(אֲרִיסְטִיסְטִיִּי)

全員 : 「わが脚を封じる。」

PC、参加者は剣指を心臓に当てる。

PC : 聖名とともに「アバグ バググ。わが心臓を封じる。」 (אָבָּגּ בָּגּגּ)

全員 : 「わが心臓を封じる。」

PC、参加者は剣指を右肩に当てる。

PC : 聖名とともに「アリム ティパー。わが右腕を封じる。」 (אֲרִימּוֹ תִּיפֶּר)

全員 : 「わが右腕を封じる。」

PC、参加者は剣指を左肩に当てる。

PC : 聖名とともに「アブリース セシー イアー。わが左腕を封じる。」

(אֲרִיסְטִיסְטִיִּי יֶאֱרֶה)

全員 : 「わが左腕を封じる。」

PC、参加者は剣指を首に当てる。

PC : 聖名とともに「アビス セル バグ エル ヤーブ ドゥーエル。わが首を封じる。」

(אָבִיסְטֵל בָּגּ אֵל יֶאֱרֶב דּוּעֵל)

全員 : 「わが首を封じる。」

PC、参加者は両手を胸の前で組む。

PC : 聖名とともに「アブ パク キテル スス エイカド ヤドヤド ヤー。わが生命と

すべての部分を守護するために。」 (אֲבֹב פָּאק קִיטֵּל סִס אֵיכָד יָדֵדֵד יֶאֱרֶה)

全員 : 「わが生命とすべての部分を守護するために。」

PC、参加者は両手を頭上高く差し出しV字を形造る。

PC : 聖名とともに「オーブ パス ヤーウ キーブ ヨー ザハブ ヤーウ ティティス。

わが天蓋を封じる。」 (אֲוֵב פָּאס יֶאֱוֶב קִיבּ יוֹ זָהָב יֶאֱוֶב תִּיטִיס)

全員 : 「わが天蓋を封じる。」

PCは封印の完成と律法の宰相への呼びかけを行う。

祭壇の傍らにいるPCの上に覆い被さるように出現する巨大な天使の像がウシャブティを呑み込む。アケファロスの顔のないオーラに、律法の宰相のテレズマ的姿形が融合し、再形成されてPCの霊的外形が急激に変化する。

PCが宣言する。

PC : 「われは、聖なる五つの文字に表象される無敵の一者なり。

四風を聖化するは、われなり。

五界を結ぶは、われなり。」

6 四風の聖化

P Cは東を向いて宣言する。

「I ∴ O ∴ S ∴ の神殿に四方位（よも）の風を召喚せん。」
神殿の東壁の中央に扉が現れた。

P Cは、東に向い高らかにヘブル語を詠唱する。それは、四方位の風をふるわせる呪歌である。

P C : 「エロウイイー

('הָלָא わが力の根元よ。)

ネシャマー・シェー・ナタフター・ビー

('בָּ שְׁמַח שְׁוֹאָה] שְׁוֹאָה 汝が授けし息吹よ。)⁽⁸⁾

テホラー・ヒー

('הָ טָהוֹרָה そは清浄なり。)

アター・バラター

(אָתָּה בְּרָא אָתָּה 汝がそを創造せり。)

アター・ヤツアルター

(אָתָּה יָצַר אָתָּה 汝がそを形成せり。)

アター・ネファクター・ビー

('בָּ נָפַח אָתָּה 汝はそを我に吹き寄せる。)

ヴェ・アター・メシヤムラー・ブキルビー

(וְאַתָּה מְשַׁמֵּר בְּקִרְבִּי 汝は我がうちにあるそを監視する。)

ヴェ・アター・アティード・リット・ラー・ム・メフニイー

(וְאַתָּה אֵטָד לְמַלְאֵךְ מִמֶּנִּי 汝はいつかそを我より取上げる。)」

全員 : 「バラフター・ヴェ・ヤツアルター

(אָתָּה יָצַר אָתָּה בְּרָא 創造と形成)」

P Cは、東の方向に宝瓶宮のサインを描く。

P C : 「ヒー・ネイ・ニー ('נִי הֵנָּה われはここに)

ヒー・ネイ・ニー ('נִי הֵנָּה われはここに)

ヒー・ネイ・アーニー・ヤー ('נִי הֵנָּה הֵנָּה われはここに、神の息吹の)

アナ・ホウシーアー (אָנֹכִי הֵנָּה הֵנָּה 加護のあらんことを)」

全員 : 「ヤー・アナ・ホウシーアー

(אָנֹכִי הֵנָּה הֵנָּה 息吹の加護あらんこと)」

P Cはヨド・ヘーの呼吸を始める。全員それに唱和する。

P C : 「ヨー」(呼気)「ヘー」(吸気)「ペーリー・マー」(無の性質を強く意識する。)

全員 : 「ヨー」(呼気)「ヘー」(吸気)「ペーリー・マー」(無の性質を強く意識する。)

東の壁いっぱい、黄色い照り返しを浴びた雲海がひろがる。

雲海は下から湧きあがる雲の断片で沸騰するようだ。

その黄色い雲の渦の中心に、仄かな薄暗い陰が生まれる。

その陰は人型をつくる。人型の頭部が紫色の光を放つ。

(8) 来る (בָּא) の変化形 (בָּ) は、「霊が我がうちに入りたり (וְהָיָה בִּי הָרוּחַ)」(『エゼキエル書』2 : 2) のように使われる。

これはエロヒムの影だ。

P Cは、祭壇の南に回り、南の方向に獅子宮のサインを描く。

P C : 「アーニー・ボー (וְאֵנִי וְאֵנִי われと名前なきもの)
アーニー・ボー (וְאֵנִי וְאֵנִי われと名前なきもの)
エロヘイ・イスラーエル (אֱלֹהֵי יִשְׂרָאֵל 主の力よ)」

全員 : 「エロヘイ・イスラーエル (אֱלֹהֵי יִשְׂרָאֵל 主の力よ)」

南の壁いっぱいに、紅蓮の炎が燃えさかる。
爆発的な溶岩の噴出、燃え上がる硫黄の噴煙を炎の陰に垣間見る。
その炎の壁のただなかに、巨大なたてがみのある生き物が見える。
強靱な爪のある筋肉の束が炎を掻き分ける。
それは獅子のすがたをもつ炎である。

P Cは、祭壇の西に回り、西の方向に天蠍宮のサインを描く。

P C : 「アーニー・ボー (וְאֵנִי וְאֵנִי われと名前なきもの)
アーニー・ボー (וְאֵנִי וְאֵנִי われと名前なきもの)
ホウシーアナ (אֲנִי וְאֲנִי われを助けよ)」

全員 : 「ホウシーアナ (אֲנִי וְאֲנִי われを助けよ)」

P Cはヴァウ・ヘーの呼吸を始める。全員それに唱和する。

P C : 「ヴァウ」(呼気)「ヘー」(吸気)「マー」(有の性質を強く意識する。)

全員 : 「ヴァウ」(呼気)「ヘー」(吸気)「マー」(有の性質を強く意識する。)

西の壁いっぱいに、ブルー・オーシャンがひろがる。
それは砂浜近くの明るい海水ではなく、海底の伺えない深海の青黒い海原である。
小島ほどもある巨大なうねりが押し寄せてくる。
その大うねりの海水の表面に、途方もなく巨大な翼ある生き物の影が映る。
それは鷲の翼のようである。

P Cは、祭壇の北に回り、北の方向に金牛宮のサインを描く。

P C : 「アーニー・ボー (וְאֵנִי וְאֵנִי われと名前なきもの)
アーニー・ボー (וְאֵנִי וְאֵנִי われと名前なきもの)
エレッツ・カーナーニー (אֶרֶץ כְּנָעַן カナンの地よ)」

全員 : 「エレッツ・カーナーニー (אֶרֶץ כְּנָעַן カナンの地よ)」

北の壁いっぱいに、乾いた大地がひろがっている。
地平線の彼方には、雲をまといつかせた山脈が遠望できる。
彼方の雪の峰から手前にかけては、なだらかな丘陵地帯になっており、
その丘の上に角のある生き物の影が射す。
生き物は牡牛のように見える。

7 三文字の名前の紋章

PCは、祭壇の西に回り、東面する。全員が東面する。

PCは両腕を脇に垂して直立し、マルクト神殿の東方遙かに存在する上位神殿と、その東壁に置かれた主の玉座を想起しつつ、高らかに詠唱の声をあげる。

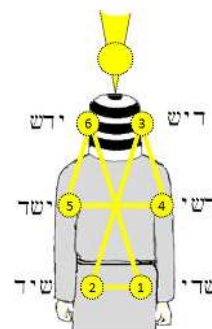
PC：「下なる火と水は、上なる水と火と調和せり。

それらを調停するは風なり。

三文字の名前の光の紋章は、耳を震わせ轟く声を発する。

発話の発話 (דִּיבְלִיבִּל דִּיבְלִיבִּל דיブル・バ・ディブル) あれ。」

全員：「発話 (דִּיבְלִיבִּל דיブル) あれ」



PC：「光の紋章をわれに刻まん。」

右手を剣指の形にし頭頂あて。静かに息を吸い込むとともに、頭頂の光球に上位界の靈光を引き下ろし、剣指を身体の前を通して、右尻まで下ろし、靈光を誘導する。息を吐きながら 'ד' ʔ を右腰の側面に視覚化し、剣指を神名に触れながら「シャダヤ」を発声する。

息を吸いながら剣指を身体の前を通して、左に動かし、靈光を右尻から腰の内部を通過しながら左尻まで誘導する。息を吐きながら 'ד' ʔ を左腰の側面に視覚化し、剣指を神名に触れながら「シャヤダ」を発声する。

息を吸いながら剣指を左尻から右耳まで引き上げ、胴体の内部を斜めに貫通する靈光を誘導する。息を吐きながら 'ד' ʔ を右耳の側面に視覚化し、剣指を神名に触れながら「ダヤシャ」を発声する。

息を吸いながら剣指を右耳から右肩まで引き下ろし、靈光を誘導する。息を吐きながら 'ד' ʔ を右肩の側面に視覚化し、剣指を神名に触れながら「ダシャヤ」を発声する。

息を吸いながら剣指を右肩から胸の前を通して左肩まで引き伸ばし、胸部を貫通する靈光を誘導する。息を吐きながら 'ד' ʔ を左肩の側面に視覚化し、剣指を神名に触れながら「ヤシャダ」を発声する。

息を吸いながら剣指を左肩から左耳まで引き上げ、靈光を誘導する。息を吐きながら 'ד' ʔ を左耳の側面に視覚化し、剣指を神名に触れながら「ヤダシャ」を発声する。

息を吸いながら剣指を左耳から右尻まで引き下ろし、胴体の内部を貫通し靈光を誘導する。息を吐く。

注：三文字の神名を視覚化する方向は、心臓から見える形でも、頭部から見えるように、
或いは前面を向き同一方向に刻印するのでも良い。ただし、後向きは望ましくない。

全員が同じ動作、視覚化及び三文字の名前を発声する。

マルクト神殿の東の壁が輝き、複数の門が開く、その深奥にある上位神殿に向け、PCは門をくぐる。

全員が上位神殿に向け、門をくぐる。

上位神殿に到着した。

PC：「三文字の名前の光の紋章は、心臓を震わせ声なき声を発する。

思考の発話 (מַשְׁחֵבֶּרֶת דִּיבְלִיבִּל דיブル・バ・マッシュェバー) あれ。」

全員：「思考 (מַשְׁחֵבֶּרֶת マッシュェバー) あれ。」

PC : 「再び光の紋章を沈黙とともにわれに刻まん。」

静かに息を吸い込むとともに、剣指で頭頂の光球に臨在する上位界の靈光を集め、さらに右尻まで下ろしていく。息を吐きながら 'ㄗ' を右腰の側面に視覚化し、『シャダヤ』を声を出さずに振動させる。

息を吸いながら剣指で靈光を右尻から左尻まで引き伸ばす。息を吐きながら 'ㄗ' を左腰の側面に視覚化し、『シャダヤ』を声を出さずに振動させる。

息を吸いながら剣指で靈光を左尻から右耳まで引き上げる。息を吐きながら 'ㄗ' を右耳の側面に視覚化し、『ダヤシャ』を声を出さずに振動させる。

息を吸いながら剣指で靈光を右耳から右肩まで引き下ろす。息を吐きながら 'ㄗ' を右肩の側面に視覚化し、『ダシャヤ』を声を出さずに振動させる。

息を吸いながら剣指で靈光を右肩から左肩まで引き伸ばす。息を吐きながら 'ㄗ' を左肩の側面に視覚化し、『ヤシャダ』を声を出さずに振動させる。

息を吸いながら剣指で靈光を左肩から左耳まで引き上げる。息を吐きながら 'ㄗ' を左耳の側面に視覚化し、『ヤダシャ』を声を出さずに振動させる。

息を吸いながら剣指で靈光を左耳から右尻まで引き下ろす。息を吐く。

全員が同じ動作、視覚化及び三文字の名前を振動させる。

大理石の立方祭壇の西側から近づき、PCが宣言する。

PC : 「祈りの声を聞かれない。偉大にして強大なる主よ。

高貴にして慈悲深き君よ、その眼差しは被造物にあまねく下される。

汝が従僕たる祈り手に向き直り、好意を持ち答えたまえ。

全宇宙の主よ、万物の造り主よ、宇宙の一者よ。

わが叫びに答え、天の門を開きたまえ。

汝が膝下にある貴顕の御名を召喚するものなり。」⁽⁹⁾

PCが高らかに唄い始める。

PC : 「リー・イエー・シュー・アッ・チャー・キー・ビー・ティー・シャーディー
(לִי יֵשׁוּעַ שְׁמוֹנִי אֲנִי כָּרְבִּי שְׁמִי 汝が導きにわが望みを主よ。)

キー・ビー・ティー・シャーディー・リー・イエー・シュー・アッ・チャー
(לִי יֵשׁוּעַ שְׁמוֹנִי שְׁמִי 我が望みを主の導かれるままに。)

シャーディー・リー・イエー・シュー・アッ・チャー・キー・ビー・ティー
(לִי יֵשׁוּעַ שְׁמוֹנִי שְׁמִי 主の導きに我が望みを。)

PC : 「サティームー・ヴェ・グー・リアー (סַתִּימוּ וְעֵגוּרִי אֵלֶיךָ)」

全員 : 「隠され開示されたり。」

聖化した四方位の風に取り巻かれ、神聖なる貌の臨在のもと、秋分の秘儀に与るときが来た。

PC : 「この場は、光と闇の至聖処なり。

今、頭上に秋分の太陽があり、

光は闇と均衡せんとしている。

われは律法の宰相として、

秋分の執行を宣言する。」

(9) James R. Davila, *Descenders to the Chariot*, Boston : Brill, 2001, p.113.

8 秋分の主祭

PCは、神殿の東側から中央を向いて言う。

PC：「祭壇に宇宙の軸を召喚せん。

I a H a V a H a (ヤァー・ハァー・ヴァァー・ハァー)

H e V e H e I e (ヘイ・ヴェイ・ヘイ・イエイ)

V o H o I o H o (ヴォー・ホォー・イョー・ホォー)

H I H V (ヘー・ヨド・ヘー・ヴァウ)」

PCが宣言する。

PC：「大いなる周行をもって、祭壇に集中せん。」

祭壇を軸として、3度周行する。

PC：「神秘なる周行は完成し、昼と夜は均衡した。秋分は到来せり。」

PCは、祭壇の西に立ち、東に向かってホルスのサインを行う。

PC：「全き光に拝礼す。闇は光に内在せり。神殿の古きパスワードは・・・なり。」

PCは、祭壇の東に立ち、西に向かってハーポクラテスのサインを行う。

PC：「深き闇に拝礼す。光は闇より生まれたり。神殿の新しきパスワードは・・・なり。」

PC：「パスワードは交換された。」

全員が祭壇を取り囲む。

PC：「腕を組み、手と手を取りて、われらのオーラをひとつに融け合わせよう。

無敵なる主の顕現にあずかりて、われらの靈魂をひとつとなし、

そをもちて、この神殿は栄光の場とならん。」

全員が手を組み輪のなかに祭壇を包み込む。

手を放すことなく次を唱える。

全員：「主よ。われらは自らを捧げん。

わが心臓と靈魂は、汝への絶ゆることなき供物とならん。

汝が御手の技の裔を受け、汝の意志のままに与え、奪いたまえ。アーメン。」

全員、東を向く。

全員：「聖なるかな、汝、宇宙の主よ！

聖なるかな、汝、自然の造らざる者よ！

聖なるかな、汝、広大にして強大なる者よ！

光と闇の主よ。」

9 諸天使の出立

神殿の床が瞬時に溶け落ち、全員がマルクト神殿に降り立った。

PCは祭壇の北に行き、南を向く。

PC：「律法の宰相の加護に感謝する。

靈の虚の場所に戻りたまえ。」

PCは再度、祭壇の西に行き、東を向く。

PC：「聖なる五つの文字に表象される長老たちよ。
ヨド・ヘー・シン・ヴァウ・ヘー (𐤓𐤕𐤍𐤕𐤍𐤕𐤍)
万軍の将、霊の虚の場所に住まわん。
ヨド・ヘー・ヴァウ・シン・ヘー (𐤓𐤕𐤍𐤕𐤍𐤕𐤍)
戴冠せる王、霊の虚の場所に住まわん。
光と闇の轆轤を逆転し、魔術師の肉体を脱ぎ捨て、光へと帰還せん。」

PC：「主よ、われらの賛歌を聞きたまえ。宇宙の韻律と調和に、感謝を捧げん。
主の聖霊は、森羅万象の上にあり、下にあり、内にあり、外にもある。
主よ、生ける霊と人の子らに、法悦と祝福を与えたまえ。
律法の宰相は、肉の衣を去れり。」

全員：「主よ、われらに祝福あれ。われらは絶えることなく汝を称えん。」

10 地上への帰還

PC：「人の子らよ。律法の宰相は、去れり。されば、地上に帰還せん。」

PCは《ヴェールを閉じる》サインを行う。

PC：「イエヘシュアーとイエホバシャーの御名において、
この儀式により拘束されし、すべての《霊》を解放せん。」

PC：「われは宣言する。神殿作業は終了せり。」

全員：「神殿作業は終了せり。アーメン。」

神殿の外へ出る。神殿の外庭でウシャブティを解放し、光の洞窟を通過して光体は自分の部屋に戻る。静かに肉体に戻る。四肢の感覚が戻ったところで、光の法衣を脱ぐ。(特別な手順は必要ない。) 光の法衣とともに儀式中に刻印された封印、その他の印は精妙界に去る。

その後、静かに目を開き、立ち上がる。

法衣を着用している場合は、沈黙のうちに着替える。

普段着に戻り、儀式についての個人的メモ(『魔法日記』用)を終わるまで、この沈黙を続けるのが望ましい。その後は、軽い食事、飲み物等を探り、地上に帰還したことを自分自身に印象づけること。

**VERBORVM PVBLICA
I : O : S :
RITVALE DE
AEQVINOCTIO AVTVMNO XVIA**

**IMPRIMI POTEST : I : O : S :
NIHIL OBSTAT QVOMINVS IMPRIMATVR
IMPRIMATVR : M.E.S.A. 5=6
SEPTEMBER MMXVI**

秋分儀式 AE16A

Copyrights © All rights reserved I : O : S : 2016

2016年9月13日 I : O : S : 発行

本文書は、複数のまたは個人の団員が、魔術実践の練習のために使用するものであり、I : O : S : の公式儀式手順書ではない。従って、本儀式を公に実施するテンプル、ロッジはその旨を会員に明確に告示する必要がある。しかし、それは同時に本文書を利用した会員の自由な実践活動を妨げるものではない。会員外の使用については、I : O : S : の許可が必要である。本文書の著作権は団に所属する。本文書の内容の一部または全部を、団の文書による許可なく、機械的、電子的、光学的、霊的、その他の手段で複製、引用、転写することを禁じる。

表紙図版：ダビデ・シモンソン（推定1800-1899年）の募集品
「ヘブル語の祈祷譜」作成地・作成年不詳
デンマーク王立図書館所蔵